

ジェイシフ

JSHIF



冬

2012.1. NO.57

- 斎藤会長 年頭所感 — 2
第7回シンポジウム開催 — 3
2011スポーツ&レジャーフェスティバル — 4
品質認証制度が創り出すもの — 6
会員紹介 — 7

社団法人 スポーツ健康産業団体連合会



年頭所感

社団法人スポーツ健康産業団体連合会
会長 齋藤敏一

2012年の新春を迎え皆様ともどもお慶び申し上げます。
昨年3月11日に発生した東北地方太平洋沖の巨大地震は、大津波、原子力発電所の事故を引き起し、東日本に未曾有の大災害をもたらしました。被災地が一日も早く復興し、企業活動や日常生活が平常に戻る事が望まれます。

スポーツには、心を晴らす力、夢や希望をもたらす大きな力があります。昨年のスポーツ界は、盛り上がりしました。サッカー女子ワールドカップ(W杯)ドイツ大会では、“なでしこジャパン”が優勝し、世界に驚きと、震災の傷が未だ癒えない日本に勇気と自信、希望を与えてくれました。また、年末の福岡国際マラソンでは、エリートに挑む雑草の感じのある市民ランナー川内優輝選手が昨年の東京マラソンに続いて日本人選手として1位となりました。粘り、気力、勝負勘など、マラソンの持つ魅力を伝えていただきました。本年は、2012年ロンドンオリンピックに向けて代表選手の選考が本格化されます。多くの選手、チームが選考され、スポーツが一層盛り上がる事が期待されます。

健康産業では、メタボリック(内臓脂肪)症候群の改善を促す特定健診・特定保健指導の制度が定着し、国民の健康づくりのために制度の一層の活用が期待される所です。最近では、国民の健康づくりへの関心が非常に高まっており、北海道、東京等、各地域で市民マラソン、ウォーキング等の大会が盛んに開催されております。まさしく楽しんで運動する、スポーツすることこそが健康への最良の道と考えます。

景気については、内閣府の発表によれば「景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。先行きについては、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、

欧州の政府債務危機などを背景とした海外景気の下振れや為替レート・株価の変動、タイの洪水の影響によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。」としております。

当連合会では、昨年3月に第3回「地域・スポーツ振興賞」の表彰式を行いました。同賞は、スポーツを通じて地域振興に貢献したと認められる団体・グループ等を顕彰するもので、全国から21件のご応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点の授賞を行いました。現在第4回を募集しており、多数のご応募を期待しております。また、スポーツ人口を拡大するためにシンポジウムを2回開催するとともに、例年実施しております市民生涯スポーツ大祭を熊本県で実施し、多数の県民のご参加をいただきました。調査研究では、昨年度に引き続き経済産業省等のご支援により医療・介護周辺サービス産業創出調査事業として「医療生活産業品質認証モデル調査」を実施しております。

スポーツが健康に資することは、学術的に実証されております。スポーツ健康産業の市場の拡大に伴い、産学官にまたがって解決しなければならない課題は更に多くなります。日本スポーツ産業学会との連携を一層深めていきたいと考えています。

当連合会は、公益法人制度改革の実施に伴い、昨年9月7日に内閣府あてに公益法人改革三法に基づく公益社団法人への移行認定申請を行いました。その申請に対し、同年11月18日付けで公益認定等委員会から内閣総理大臣あてに認定の基準に適合すると認めるのが相当である旨の答申がなされました。

本年も事業計画に掲げた事業の実現を図り、スポーツの普及の振興はもとよりスポーツ健康産業の一層の発展に努力してまいります。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈りし年頭の挨拶といたします。

震災復興とスポーツの底力



2011年7月20日(水)に開催された第7回シンポジウムでは、3月の東日本大震災の影響とその後の復興においてスポーツ産業の果たす役割など、時宜を得たテーマをきっかけに活発な意見交換がなされました。前半のプレゼンテーションでは各スポーツを代表するパネリストたちによる報告や提言がありました。その内容を要約・抜粋して紹介します。

震災と復興、スポーツ健康産業界の取り組み

■震源地から離れていると思われていた福島県は4月の余震の影響で、63ゴルフ場のうち26クラブが大きな被害を受け、むしろ他県よりも甚大でした。また原発の事故による4月、5月の風評被害は40コースほどだけでも対前年比売上約12億円減。残念ながら風評被害等で営業を再開できないところは年内一杯で10~15コース程度にのぼります。

大震災の後は、25程度のクラブがお風呂を無料提供。ロッジを宿泊施設として提供したり、全国で約60コースくらいが、いろいろな形で貢献をしようとしていました。またゴルフ関連20団体で復興支援を計画し「50億円の義援金を集めましょう」と始めましたが、なかなか厳しいのが現状です。

(社団法人日本ゴルフ場事業協会 専務理事 大石順一氏)

■ボウリング場は面積が広くて柱がないので揺れに弱い。とりわけ築40年近くたっている施設が多いことも理由で大きく被害が出ています。東北6県の加盟センター37のうち、営業が継続できたものが14。3月中旬に再開できたのが6。5月、6月、7月中旬に再開したものが6という状況です。

(社団法人日本ボウリング場協会 顧問 岡本常光氏)

■ボウリング場協会の事業として復興支援活動をしてきて、いちばん思ったことは、まず、投げに来た人がうれしい、自分たちの会社もうれしい、それでできたお金が震災のほうに行って喜んでいただける。つまりプレイヤーと、経営者側と、そのお金が回るという、この3者がハッピーでないと、今後10年続くという復興に対して本当に長くは続けれられない。そう、強く感じました。

(笹塚ボウル 専務取締役支配人 財津宜史氏)

■一例ですが、プールの天井が全部落ちた仙台のフィットネスクラブの場合、温浴ゾーンだけは無事でした。落ちた

■プレゼンテーション

パネリスト

大石 順一 氏 (社団法人日本ゴルフ場事業協会 専務理事)

岡本 常光 氏 (社団法人日本ボウリング場協会 顧問)

財津 宜史 氏 (笹塚ボウル 専務取締役支配人)

吉田 正昭 氏 (社団法人日本フィットネス産業協会 副会長)

加藤 誠 氏 (株式会社ジェイティービー 地域交流ビジネス統括部長)

■パネルディスカッション

コーディネーター

丁野 朗 氏 (社団法人日本観光振興協会 常務理事・総合研究所長)

パネリスト

加藤 誠 氏 (前出)

近藤みちよ 氏

(総合ユニコム株式会社「月刊レジャー産業資料」企画事業部 課長)

古屋 武範 氏 (株式会社クラブビジネスジャパン 代表取締役)

天井など見られたいませんが、しかし地域の方の困っている度合いのほうが明らかに大きい。腹をくくってお風呂の焚き出しをさせていただきました。結果的に「思ったほどフィットネスクラブは敷居が高くない」と感じられた住民も多かったようで、その後クラブに来てくださるようになった方々もおられます。

東京都内で交通機関が止まったときには、これから災害に備えて身体の頑強さが重要だと多くの方が思われたようです。まったく先行きを読めなかった状況でしたが、実は既存クラブの入会が、4月、5月、6月と増えている。入会が多いことに一喜一憂するのではなく、世の中の人々が本当に健康づくり、フィットネスクラブを必要と考えていただいた、そういうふうには考えております。

(社団法人日本フィットネス産業協会 副会長 吉田正昭氏)

■今回の震災は広域かつ複合的です。福島原発事故もございました。日本に対する危機感からこの3月、4月、5月、訪日外国人が激減です。また被災地の観光産業へのダメージが大きく、自粛ムードで旅行の需要が完全に低迷しました。原発、計画停電がツーリズム産業全体に及ぼした影響は甚大でした。しかし夏場はいくぶん戻ってきております。これは東北地区を観光することによって、復興の一つのお手伝いになるという考えが浸透してきた表れだと考えております。その後、我々の業界と観光庁を中心に、東北をどうにか元に戻すように協力ができないかということで「がんばろう！東北」キャンペーンを4月から早速開始をさせていただきます。

(株式会社ジェイティービー 地域交流ビジネス統括部長 加藤 誠氏)

■以上のプレゼンテーションの後は、パネリスト各氏や出席者も参加しての活発なディスカッションがかわされました。

2011 スポーツ&レ

■会期 2011年10月22日(土)、23日(日)

■会場 グランメッセ熊本(屋内展示場スペース、屋外芝生スペース)

スポーツ&レジャーフェスティバルは、さまざまなスポーツ種目およびスポーツ産業の振興、そしてスポーツを活用して地域を元気にしようと全国各地で開催されてきた市民生涯スポーツ大祭です。毎年いろんなスポーツを手軽に楽しむことのできるイベントとして、ひろく地域のみなさんに親しまれてきたものですが、2011年も成功裏のうちに終えることができました。

■主催■

スポーツ&レジャーフェスティバル運営委員会
(社団法人スポーツ健康産業団体連合会・熊本朝日放送株式会社)

■後援■

経済産業省・文部科学省

■協力■

日本女子柔道倶楽部

2011年スポーツ&レジャーフェスティバルは前年に引き続きグランメッセ熊本の屋内展示場、屋外広場で2日間にわたって開催されました。期間中はおおむね好天に恵まれ、多くの方が来場、2日間の延べ来場者数は18,000人を超えるなど、成功裏に終えることができました。また熊本朝日放送主宰の「KAB元気フェスタ2011」の共催もあり、22日(土)には生中継番組も放映、イベント盛り上げに大きく貢献しました。

グランメッセ熊本屋外広場ではナインビンゴ、サッカーナイン、ストラックアウト、ナインフープス、サイクル発電チャレンジ、スループラスなどのイベントが人気。また屋内展示場ではおもしろ自転車に乗ったお子さんたちが走り回り、恒例のキッズじゅうどうでは講師の元全日本強化選手の末広奈津子先生や石橋千草先生、日本女子柔道倶楽部の皆さんのご協力により、幼稚園児から小学5年生くらいまでの子供さんたちに柔道着を着てもらい、挨拶や技のかけ方などのやさしい指導も行われました。



やさしく技を
教えてもらう
「キッズじゅうどう」



えい!と投げて、
当たるかな?
「ストラックアウト」



ボールを転がして
ビンゴを目指す
「ナインビンゴ」



ジャーフェスティバル

KEIRIN
00

このイベントは
「競輪公益資金」の補助を受けて
開催しています

不思議な自転車が
いっぱい
「おもしろ自転車体験」



うまく蹴って、
枠に通せば大成功
「サッカーナイン」



角度と高さが
決め手です。
「ナインフープス」



回して回して
人力発電
「サイクル発電チャレンジ」



ゲートをぜんぶ通過は
意外に難しい
「スルーパス」



期間中の観客動員数

イベント	22日(土)	23日(日)
開会式	600	
ナインビンゴ	1,200	1,200
サッカーナイン	1,200	1,400
ストラックアウト	900	1,600
ナインフープス	900	1,200
サイクル発電チャレンジ	950	700
スルーパス	800	900
おもしろ自転車体験	1,100	1,800
キッズじゆうどう	400	
スタンプラリー	650	700
合計	8,700	9,500
参加延べ人数		18,200名

品質認証制度が創り出す 社会のイメージ

「医療生活産業品質認証モデル」調査コンソーシアムは、こんな社会を目指して研究推進を続けています
(平成23年度研究の一例をご紹介します)。



【OL達の休憩時間】

「最近お腹に肉がついてきちゃって、やばくない？ヨガ教室にいこっかな。教室がたくさんあるけどどこがいいの？」
「★マークのあるところしかあり得ないよ～。小さな教室でもかなりいい感じ。スマホで検索してみれば？」
「サンキュ。ヨガ教室と★マークのことも調べてみるわ。」



【年配主婦同士の会話】

「ずっと元気で長生きしたいわ。介護予防を始めないとね。手軽にできる予防ってあるの？」
「総合型地域スポーツクラブの〇〇で運動を始めたら？〇〇は★マークのあるクラブだから質はいいと思うよ。会費は安いしいいし早速一緒にネットで検索してみる？」

【年配夫婦の会話】

「区報でロコモティブシンドローム予防の体操教室の参加者募集をしてただけで、★マークを持ったインストラクターが担当らしいぞ。」
「長谷川さんが★マークを持ったインストラクターの体操教室に参加して、すごく良かったと言ってたわ。私も★マークの先生に習ってみたい。一緒に参加申し込みをしましょうよ。」

大手事業者★



小規模・個人事業者★



受託型事業者★



人材派遣型事業者★



認証
認証
認証

認証

認証

連携

教育機関
職能団体
介護機関
医療機関

★ 認証取得事業所のサービス購入

【リハビリで通所している医療施設で】

「リハビリは今月で終了予定ですので、今後はポストリハビリをお勧めします。」
「どこでポストリハビリをしたらいいですか？」
「★マークのある運動施設がいいでしょう。小規模でもポストリハビリが得意な施設があります。サービスの内容を公表していますので、自分にあったか判断ができますよ。」

【風邪でかかりつけ医院を受診して】

「風邪はすぐ治ります。それよりあなたメタボ予備軍のようですね。★マークのあるフィットネスクラブでメタボ予防の運動をやったほうがいいですよ。★マークのあるクラブでのメタボ予防運動は効果が期待できますよ。」
「希望者には運動指示書を出します。」
「指示書をお願いします。」

【健康診断の結果生活習慣病と診断された病院で】

「糖尿病と診断しますので、治療を始めましょう。運動処方箋を出します。」
「運動指導はどこでしてもらえますか？」
「★マークのあるフィットネスクラブなどで運動指導を受けてください。インストラクターが運動指導をしてくれます。」

医療生活産業品質認証モデル調査は医療生活産業における商品・サービスの品質認証を行うために、関連団体・事業者との合意形成をしつつ、品質認証モデルの構築に向けた認証規格を設計することによって産業の振興を担うことを目的としております。

株式会社アシックス



弊社は、スポーツを通じて青少年を健全に育成することを願い、昭和24年に鬼塚株式会社として創業し、スポーツシューズの製造販売をスタートいたしました。昭和52年には、スポーツウエア・用具メーカーの株式会社ジティエオおよびスポーツウエアメーカーのジェレンク株式会社と合併し、商号を株式会社アシックスに変更して総合スポーツ用品メーカーとなりました。おかげさまで2009年には創業60周年を迎えることができました。アシックスグループは、現在、国内21社、海外32社の合計53社からなり世界各国において事業を展開しております。特に海外の市民マラソンの拡大の流れを受けて、2010年度の海外売上比率は62.6%まで高まっております。

アシックスという社名は、古代ローマの風刺作家ユベナリスの言葉、「Anima Sana In Corpore Sano - (もし神に祈るならば)健全な身体に健全な精神があれかしと祈る(べきだ) -」の頭文字をとったものです。また、創業者鬼塚喜八郎の起業の思いに重なるこの言葉は弊社の創業哲学として

日本国内はもとより世界各国の販社にも受け継がれ、事業を推進する力になっています。

弊社は、2011年4月から5カ年の新中期経営計画「アシックス・グロス・プラン(AGP)2015」を策定いたしました。この計画では、コア事業であるランニング、弊社の製品開発の原点であるアスレチックスポーツ、スポーツの技術資産を活かし、先鋭的で洗練されたスタイルを提案するオニツカタイガーに焦点を当て事業を進め、2015年連結売上高4,000億円を目指しております。またそのために、グループ全体でお客様起点の活動を徹底するという基本方針のもと、グローバルな組織のもとで世界各地のお客様のニーズに対応すると同時に、革新的な価値の提供を通して皆さまの質の高いライフスタイルに貢献してまいります。

- 所在地：〒650-8555 兵庫県神戸市中央区港島中町7-1-1
- 電話：078-303-2231
- ホームページ：<http://www.asics.co.jp/>

会員紹介

会員の皆様の事業内容をご紹介します

株式会社エバニュー



弊社は、大正12年(1923年)に金属運動用具製造卸「増新商店」として創業し、昭和25年(1950年)に法人組織となり、昭和40年(1965年)に現社名である「エバニュー」と改称しました。

お陰様をもちまして本年で89年目を迎えることとなり、現在では跳び箱・体操用マット・ライン引などを取り扱う学校体育用品事業部、キャンプ・登山用品を取り扱うアウトドア用品事業部、トレーニングシューズの火付け役となったMBTシューズを取り扱うMBT事業部と、大きく3つの事業を展開しております。

弊社は社名「エバニュー」の通り、「EVERNEW(常に新しく)」をモットーとしており、毎年数多くの製品を開発し、皆様の声に答えるべく邁進してまいりました。しかしながら昨今の少子高齢化が進む現代社会において、子供の体力

低下・高齢者の健康維持などが大きく取り上げられ、更なる開発力・提案力が必要であるものと捉えております。そのひとつとして先生方のナマの声を製品に生かすべく何度も教育現場を訪問し、結果的に「使いやすさは安全の一つ」をテーマとし新たな開発へのチャレンジを進めております。

今後も多様化するニーズに答え、皆様の健康づくり・豊かな生活へのサポートが出来ます様、幅広いスポーツ環境づくりを目指してまいります。

今後とも宜しく願い申し上げます。

- 所在地：〒135-8506 東京都江東区木場6-4-38
- 電話：03-3649-4611
- FAX：03-3645-1695
- ホームページ：<http://www.evernew.co.jp/>

公益社団法人への移行認定申請に 「基準に適合」答申

経済産業省所管の特例民法法人である当連合会は、平成25年11月30日までの間に、内閣総理大臣あてに公益社団法人又は一般社団法人へ移行申請して、公益社団法人の認定又は一般社団法人の認可を得る必要があります。

この公益法人制度改革の実施に伴い、昨年9月、「公益法人改革三法に基づく公益社団法人への移行認定申請」を行

いました。この申請に対して同年11月、公益認定等委員会は「認定の基準に適合すると認めるのが相当である」との旨の答申を内閣総理大臣あてに行いました。これにより、当連合会が公益社団法人へ移行の実質的な筋道が敷かれたことをご報告いたします。

第4回地域・スポーツ振興賞

多数のご応募、ありがとうございました。

スポーツを通じて地域振興に貢献した団体・グループを顕彰する「地域・スポーツ振興賞」の第4回の募集を締め切りました。全国から多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

現在、当連合会の選考委員会において最優秀賞、優秀賞等を選考中です。表彰は3月6日(火)開催の「第8回シンポジウム」の席上にて予定しています。

平成23年度 第1回情報交換会

東日本大震災、ユーロ危機、TPPと続いて日本経済は激動期を迎え、スポーツ産業界も明日への発展の方向性を模索しているところです。日本生産性本部の柳田主任研究員、桜美林大学の山口教授をお招きし、スポーツ産業界の現状と新しい動きについて情報交換を行います。

●テーマ●
**レジャー白書から見える
スポーツ産業の現状と新しい動き**

<日時> 1月19日(木) 15:00
<場所> 弘済会館 4階会議室「菊」
東京都千代田麹町5-1

第8回シンポジウムのお知らせ

第8回シンポジウムを下記の日程で開催します。
<日時> 3月6日(火) 13:30~17:00
<場所> 如水会館 東京都千代田区一ツ橋2-1-1
<電話> 03-3261-1101

●内 容●
■基調講演
■第4回地域・スポーツ振興賞の表彰

詳細は決まり次第ご案内いたします。
各社・各団体とも、未来の産業を担う若手の男・女の参加を歓迎いたします。

JSHIF2012.1.No.57 (冬号)

発行 社団法人スポーツ健康産業団体連合会
Japan Sports Health Industries Federation
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル6階
Nogakushorin Bldg 6F,3-6 Kandajinbo-cho,Chiyoda-ku Tokyo 101-0051 Japan
TEL03(5276)0141 FAX03(5276)0288
ホームページアドレス <http://www.jsif.or.jp/>

発行日 2012年1月18日

発行責任者 広報宣伝・調査部会 部会長 池田朝彦

編集協力 株式会社 創ファクトリー



地下鉄九段下駅
東西線・半蔵門線・新宿線
=A-5 番出口
地下鉄神保町駅
半蔵門線・三田線・新宿線
=A-2 番出口
※駐車場はありませんので、
電車をご利用ください。